

平成19年10月29日

独立行政法人 労働政策研究・研修機構 理事長 稲上毅
担当：キャリアガイダンス部門副主任研究員 下村英雄
電話 048-463-1444
URL : <http://www.jil.go.jp> E-mail : hsim@jil.go.jp

子どもの将来を不安に思う親が多いなか、学校で身につけてほしい力は「コミュニケーション能力」「人を思いやる力」「読み書きなどの基礎的な学力」など。職場体験学習に対する高い期待感も。

～労働政策研究報告書 No.92「子どもの将来とキャリア教育・キャリアガイダンスに対する保護者の意識」調査結果より

【要旨】

本報告書は、保護者が、子どもの将来をどのように考えているのか、また、それに対応すべきキャリア教育をどのように見ているのかについての調査研究の成果である。調査は、平成19年1月に、子どもを持つ30～50代の全国の親1,372名を対象に行った。独立行政法人労働政策研究・研修機構と日本キャリア教育学会との共同研究プロジェクト（座長：三村隆男上越教育大学准教授）であり、研究会を設置して検討を行った。

【調査結果のポイント】

1. 今後もフリーターやニートが増えると思う親は約8割。将来の格差拡大を心配する親は約9割

日本全国の親1,372名を対象に、これからの若者の進路環境についてたずねた結果、「今後もフリーターやニートの若者が増える（86.8%）」、「若者の就職の問題が社会全体の問題に広がる（74.4%）」などの質問項目で「心配している」という回答が多かった。また、「人々の収入や財産の格差が拡大する（87.8%）」と考えている親も多かった。

2. 親が学校で身につけさせたいとする力は、「コミュニケーション能力(33.4%)」「人を思いやる力(33.0%)」「読み書きなどの基礎的な学力(27.3%)」

親が、学校で身につけさせたいと考えている力は、「コミュニケーション能力（33.4%）」「人を思いやる力（33.0%）」「読み書きなどの基礎的な学力（27.3%）」であった。以下、責任感、協調性、忍耐力などの能力も挙がっており、学校に対して人格形成的な面を期待する親が多かった。

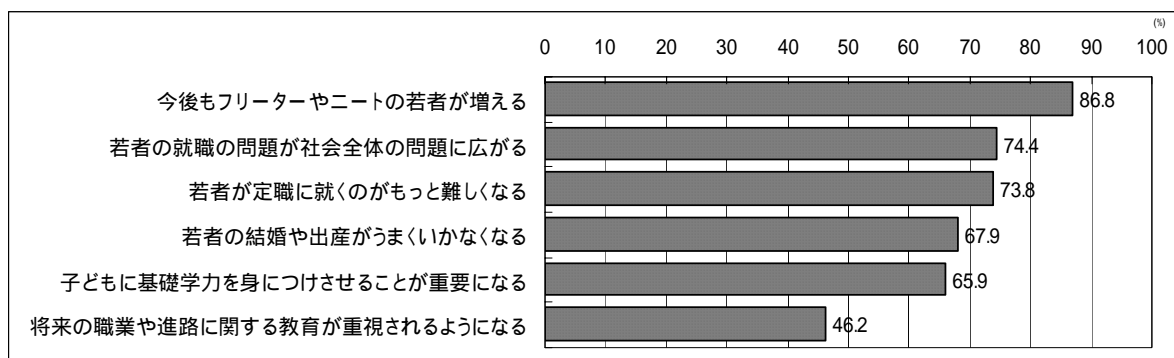
3. 職場体験学習の受け入れ経験は2割弱に留まるが、職場体験学習そのものは8割以上の保護者が高く評価

子どもの将来に向けた取り組みとして、現在、中学校などで職場体験学習を中心としたキャリア教育が盛んに行われているが、職場体験を受け入れた経験のある親は2割に留まる。ただし、約8割以上の親が、中学校における職場体験学習を「とても良いことだ（37.2%）」「良いことだ（45.7%）」と高く評価していた。

1. 今後もフリーターやニートが増えると思う親は約8割。将来の格差拡大を心配する親は約9割

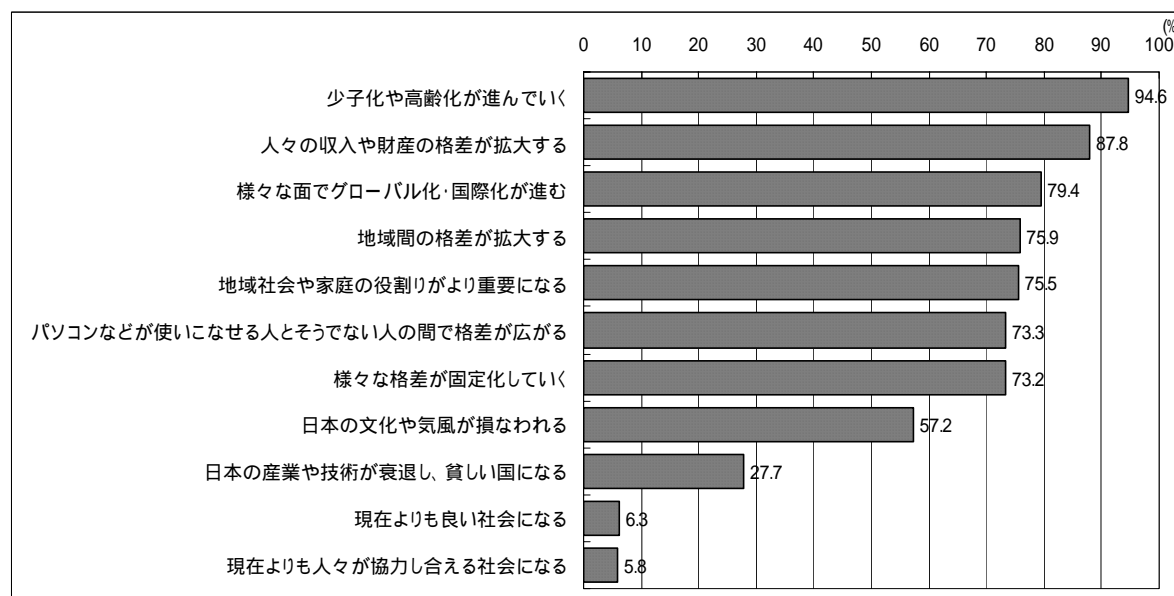
全国の子どもを持つ30～50代の保護者1,372名を対象に、これからの若者の進路環境についてたずねた結果、「今後もフリーターやニートの若者が増える」（かなり心配している43.2%、やや心配している43.6%）、「若者の就職の問題が社会全体の問題に広がる」（同26.7%、47.7%）、「若者が定職に就くのがもっと難しくなる」（同33.4%、40.4%）などの質問項目で心配であるという回答が多かった（図表1）。

図表1 「これからの子どもや若者の進路を取り巻く環境についてあなたはどのようなことを心配していますか」（「かなり心配している」+「やや心配している」の割合）



また、同じく今後の社会情勢についてたずねた結果、「少子化や高齢化が進んでいく」（かなり当てはまる60.7%+やや当てはまる33.9%）に次いで、「人々の収入や財産の格差が拡大する」（同43.4%、同44.5%）、「様々な面でグローバル化・国際化が進む」（同23.6%、同55.8%）といった認識が、保護者の間で幅広く共有されていた（図表2）。

図表2 「あなたは、今後の社会情勢についてどのようなお考えをお持ちですか」（「かなり当てはまる」+「やや当てはまる」の割合）



高学歴の親では、「人々の収入や財産の格差が拡大する」「地域間の格差が拡大する」「様々な面でグローバル化・国際化が進む」「様々な格差が固定化していく」など格差拡大の問題を重視する割合が高かった（図表3）。

非高学歴の親では、「職業や進路に関する教育が重視されるようになる」「若者が定職に就くのが難しくなる」「若者の就職の問題が社会全体の問題に広がる」など若者の就職の問題を重視する割合が高かった（図表4）。

概して、高学歴の親または男親は「格差拡大に対する不安」が大きく、非高学歴の親または女親は「若者の就職に対する不安」が大きかった（図表3～5）。

図表3 今後の社会情勢に対する認識の学歴別の違い

	大卒・ 院卒 (N=474)	短大・ 専門卒 (N=353)	中卒・ 高卒 (N=544)
人々の収入や財産の格差が拡大する	91.1%	89.7%	83.5%
地域間の格差が拡大する	83.5%	72.5%	71.5%
PCなどを使いこなせるかどうかで格差が広がる	72.5%	74.9%	73.0%
日本の産業や技術が衰退し、貧しい国になる	25.6%	27.1%	29.6%
日本の文化や気風が損なわれる	56.1%	55.7%	58.9%
様々な面でグローバル化・国際化が進む	84.0%	78.2%	76.2%
現在よりも良い社会になる	7.2%	4.9%	6.3%
少子化や高齢化が進んでいく	96.2%	95.1%	93.0%
様々な格差が固定化していく	77.2%	75.6%	68.2%
現在よりも人々が協力し合える社会になる	7.2%	4.9%	5.4%
地域社会や家庭の役割がより重要になる	75.2%	78.9%	73.6%

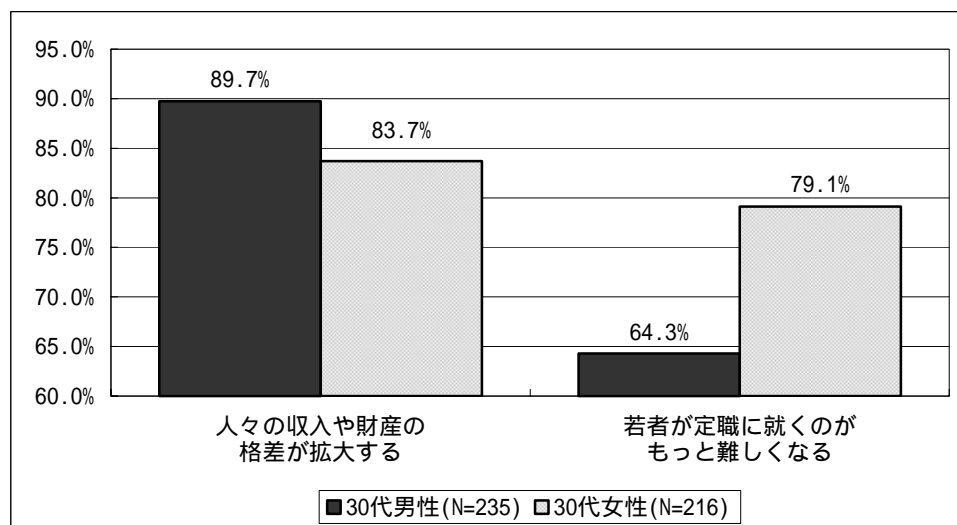
(注) 数値は「かなり当てはまる」+「やや当てはまる」の割合である。

図表4 これからの若者の進路環境に対する認識の学歴別の違い

	大卒・ 院卒 (N=474)	短大・ 専門卒 (N=353)	中卒・ 高卒 (N=544)
職業や進路に関する教育が重視されるようになる	42.5%	46.3%	49.4%
基礎学力を身につけさせることが重要になる	66.6%	67.1%	64.3%
今後もフリーターやニートの若者が増える	83.9%	88.9%	88.0%
若者が定職に就くのがもっと難しくなる	65.3%	78.3%	78.4%
若者の就職の問題が社会全体の問題に広がる	70.2%	76.3%	76.9%
若者の結婚や出産がうまくいなくなる	66.4%	70.3%	67.7%

(注) 数値は「かなり心配している」+「やや心配している」の割合である。

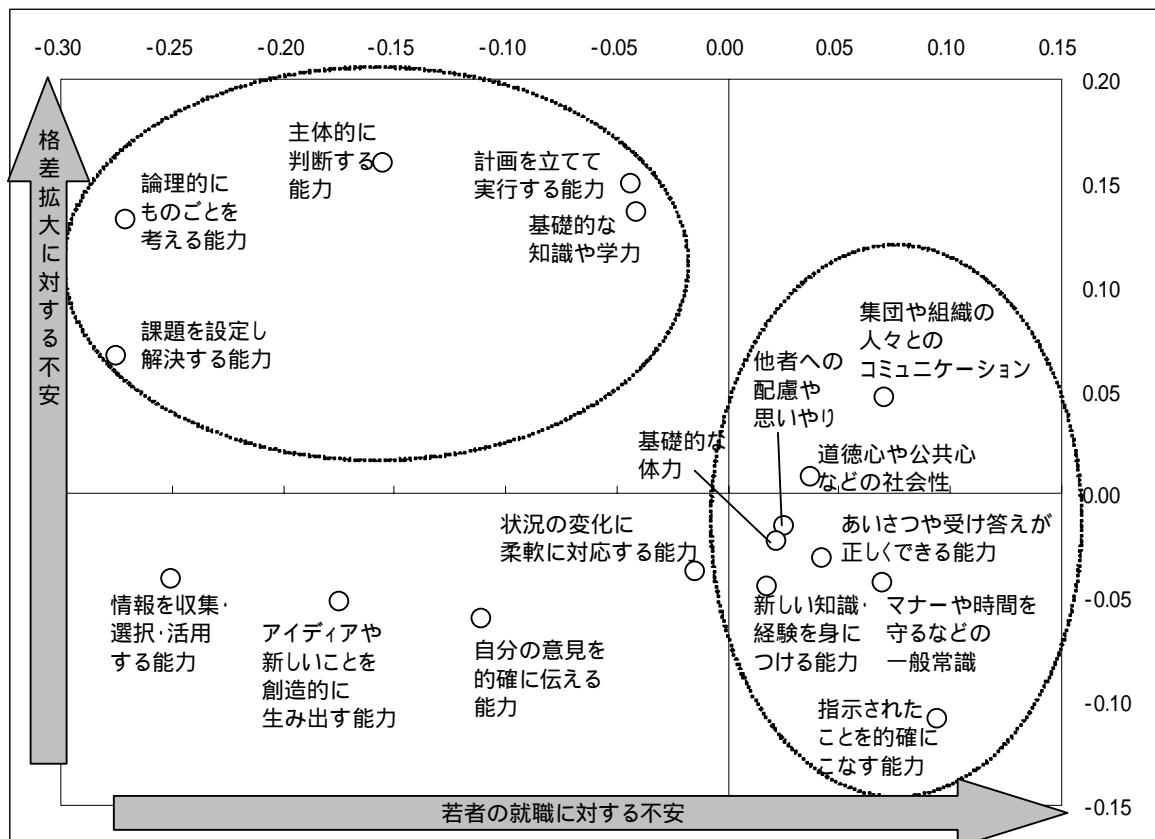
図表5 30代の父親・母親の「格差拡大に対する不安」「若者の就職に対する不安」の違い



(注) 図表3～4に同じ

また、多変量解析による分析の結果、「格差拡大に対する不安」を感じる親は、新社会人に特に不足している能力として「主体的に判断する能力」「論理的にものごとを考える能力」「計画を立てて実行する能力」「基礎的な知識や学力」など、抽象的・概念的なスキル・能力を挙げたのに対して、「若者の就職に対する不安」を感じる親は、「集団や組織の人々のコミュニケーション」「マナーや時間を守るなどの一般常識」「指示されたことを的確にこなす能力」「あいさつや受け答えが正しくできる能力」など、個々の職場や就労に近い場面での能力を重視していた（図表6）。

図表6 将来に対する親の不安と新社会人に欠けていると思う能力

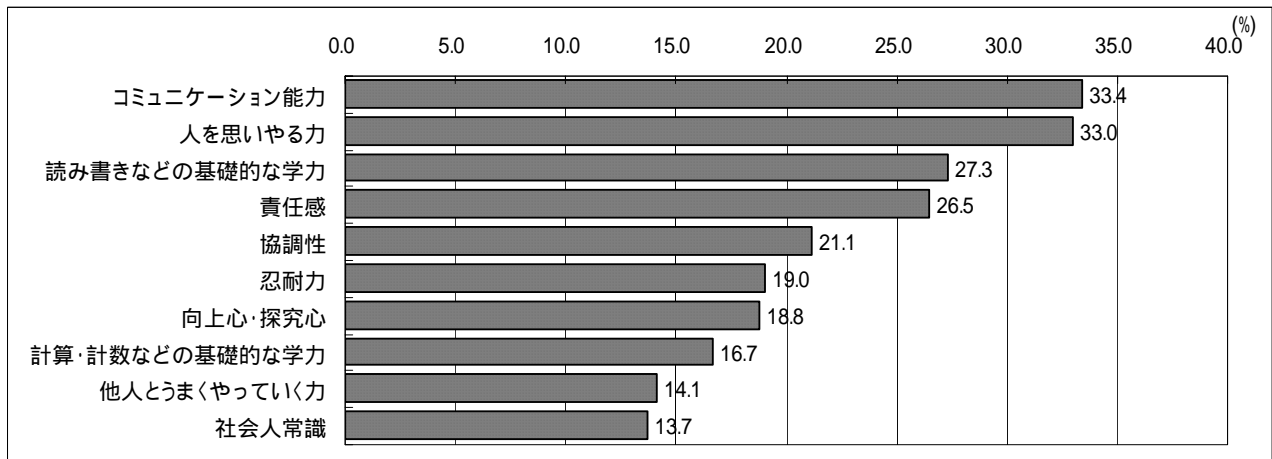


新社会人に求める能力が、「個々の職場における具体的な人間関係スキル」と「特定の職場を超えた抽象的な概念的スキル」の2つに分けて捉えられており、それぞれが若者の就職に対する不安または格差拡大に対する不安を背景にしていることが分かる。

2. 親が学校で身につけさせたい力は、「コミュニケーション能力(33.4%)」「人を思いやる力(33.0%)」「読み書きなどの基礎的な学力(27.3%)」

親が、子どもに学校で身につけさせたいと考えている力は、「コミュニケーション能力(33.4%)」「人を思いやる力(33.0%)」「読み書きなどの基礎的な学力(27.3%)」であった。以下、責任感、協調性、忍耐力などの能力も挙がっており、学校に対して、人格形成的な面を期待する親が多かった。

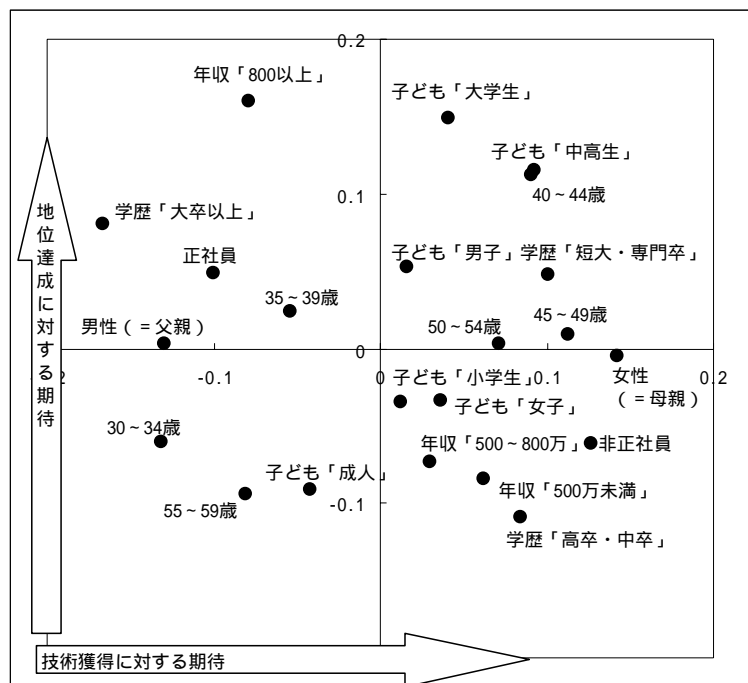
図表7 「あなたは、これからの子ども達に学校でどのような力を身につけてほしいとお考えですか。身につけてほしいものの中から特に重要なものを3つ選んでお答えください」に対する回答結果(上位10位まで)



図表8 子どもに対する期待の親の属性による違い

また、親の子どもに対する期待は、
 (1)「社会的な地位や信用のある職業に就いて欲しい」といった質問項目に象徴される「地位達成に対する期待」と、
 (2)「手に職をつけてほしい」といった質問項目に象徴される「技術獲得に対する期待」の2つに分けられた。

- ・「地位達成に対する期待」は、年収「800万円以上」、学歴「大卒以上」、正社員、30代後半、男性(父親)で強く(図表8左上)、
- ・「技術獲得に対する期待」は、年収「500万未満」または「500~800万」、非正社員、学歴「高卒・中卒」、女性(母親)で強かった(図表8右下)。



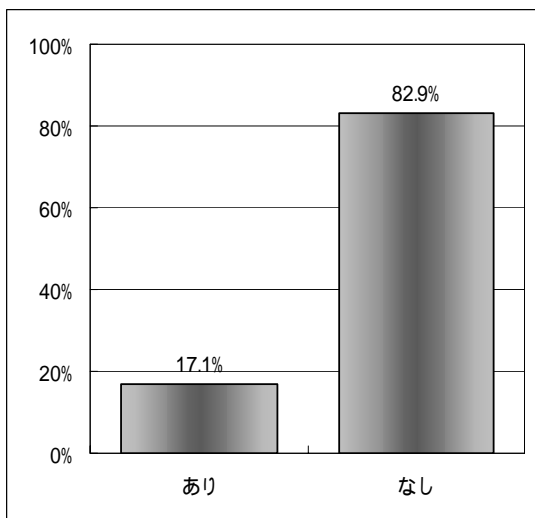
概して、高収入・高学歴・正社員の親および父親は、子どもに「社会的な地位の達成」を望み、非高収入・非高学歴・非正社員の親および母親は、子どもに「何らかの手に職をつけること」を望んでいた。

3. 職場体験学習の受け入れ経験は2割弱に止まるが、職場体験学習そのものは8割以上の保護者が高く評価

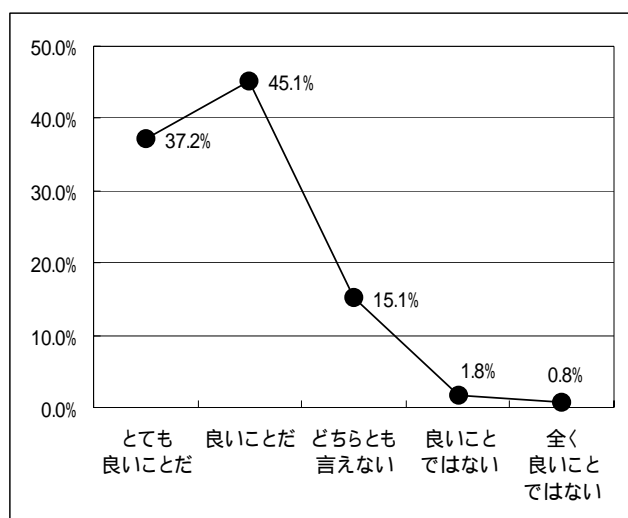
子どもの将来に向けた取り組みとして、現在、中学校などで職場体験学習を中心としたキャリア教育が盛んに行われているが、職場体験を受け入れた経験のある親は2割に止まる（図表9）。専業主婦などを除いた、何らかの職をもつ有業者に限定しても、受け入れ経験のある親は19.6%に止まった。

しかし、ほとんどの親は、中学校における職場体験学習を「とても良いことだ（37.2%）」「良いことだ（45.7%）」と評価しており、職場体験学習を高く評価していた（図表10）。

図表9 職場体験の受け入れ経験の有無

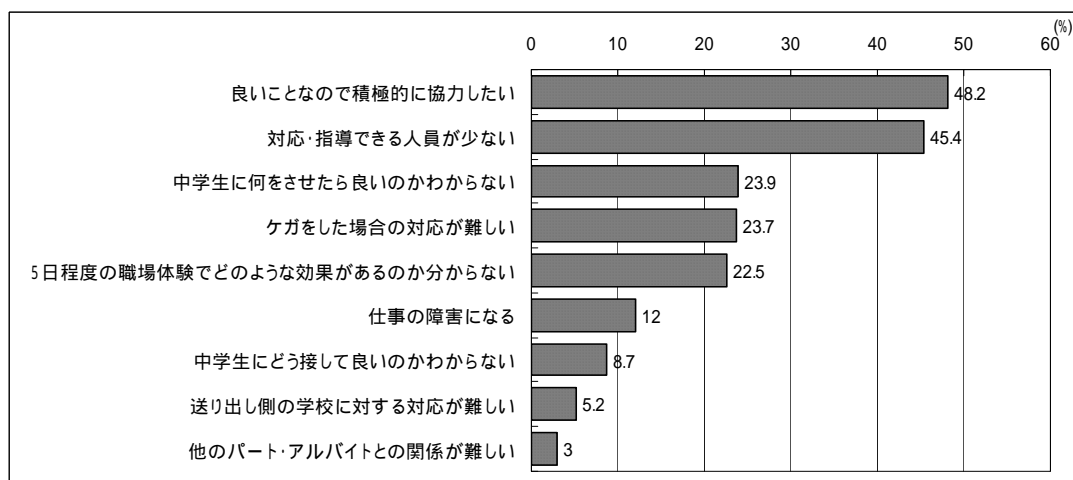


図表10 中学校における職場体験学習に対する評価



今後についても、職場体験学習は「良いことなので協力したい（48.2%）」という回答が最も多かった。ただし、「対応・指導できる人員が少ない（45.4%）」「中学生に何をさせたら良いのかわからない（23.9%）」という回答も多かった（図表11）。

図表11 中学校における職場体験の受け入れに対する意見(複数選択)



こうした結果から、職場体験学習などに協力したいと考えている保護者は、現状よりも多いことが推測され、職場体験をコーディネート・指導できる人材の確保、中学生向けの職場での受け入れプログラムなどの充実が望まれる。

参考

1. 本研究の問題意識

フリーター・ニートに象徴される若年不安定就労の問題に対する社会的な関心の高まりから、現在、各方面で若者の就労支援・キャリア形成支援が行われている。なかでも、学校教育段階の若者に対するキャリア教育・キャリアガイダンスの取り組みは大きな広がりを見せている。

こうしたなか、改めて、その重要性が認識されているのが、キャリア教育・キャリアガイダンスにおける保護者の役割である。現在、保護者は、様々な立場で学校のキャリア教育・キャリアガイダンスに関わっている。家庭にあっては親であり、子どもに対する家庭教育の主体である。しかし、同時に、社会人としては職場体験先として子どもを迎える受け入れ先でもある。また、地域では他人の子どもを含めた若者を取り巻く地域住民でもある。

そのため、保護者が現状のキャリア教育・キャリアガイダンスをどのように考えているのかは、今後の日本のキャリア教育・キャリアガイダンス施策の行く末を占う上で極めて重要な要素となる。現状において、保護者が子どもの将来に寄せている期待とは何か。そして、子どもが育った先にある社会をどのように考えているのか。子どもにどんな能力を身につけさせたいと考え、学校にどのような教育を期待しているのか。そのために、社会人として、地域住民としてどんな面で貢献できると考えているのか。

本報告書では、以上のような問題意識を背景に、子どもの将来とキャリアガイダンスに対する保護者の意識について幅広く検討を行うことを目的とした。

2. 本研究の調査方法

本研究では、キャリア教育・キャリアガイダンスに対する一般の社会ニーズに関する調査を実施し、その背景を分析した。調査は、調査会社のモニターから子どもがいる成人を対象に性別および年齢を一定にしたサンプリング方法を用いて郵送で実施した。具体的には、性別（男性・女性）×年齢（30代・40代・50代）で作られる6つのセルに200名ずつを均等に割り当てて調査を行えるように調査会社に依頼した。以上のサンプリングに基づいて、最終的に、調査発送数1,500通、うち回収数1,372通で回収率は91.5%であった。調査は、2007年1～2月にかけて実施した。調査項目は、大きく、「本人について」「これからの若者・子どもについて」「学校におけるキャリア教育について」「社会人に立場からみた若者について」「地域住民の立場からみた若者について」「今後の社会情勢について」の6つのセクションに分かれていた。

3. 本報告書の目次

- 第1章 本研究の問題意識と目的および概要
- 第2章 子どもの将来に対する保護者の期待
- 第3章 学校のキャリア教育に対する期待
- 第4章 子どもの将来とキャリア教育に対する保護者の意識
 - 多変量解析による検討および労働行政に対する示唆
- 第5章 社会人・地域住民の立場からみたキャリア教育
- 第6章 今後の社会情勢の認識とキャリア教育
- 第7章 今後のキャリア教育・キャリアガイダンス施策への示唆
- 補章 自由記述結果にみるキャリア教育

報告書の詳細については、労働政策研究・研修機構ホームページもご参照下さい。

<http://www.jil.go.jp/institute/reports/index.html>